

成果の説明書

(氏名) 太田 慧	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>【教育上の成果に関する事項】</p> <p>本年度は初年次ゼミ、初年次ゼミ（再履クラス）、地理情報システム論、地理学、地域統計論、基礎演習、演習 I を担当した。詳細は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none">・初年次ゼミ：1 年生を対象として、少人数での輪読やプレゼンテーションの練習を実施した。本年度は ZOOM と Teams を併用したオンライン形式で実施した。・初年次ゼミ（再履クラス）：同上・地理情報システム論：地理情報システム（GIS）の基礎的な理論や考え方を伝え、地理情報システムのソフトウェアである QGIS を用いた実習を実施した。本年度はオンライン開講のため、学生個人の PC に QGIS をインストールしてもらい、ZOOM を用いて双方向の授業を実施した。・地理学：地理学の基礎的な考え方や理論を紹介し、主に人文地理学のテーマを具体的な地域をとりあげながら説明することで、地理学的な知識の定着を図った。本年度は ZOOM を用いたオンライン形式で開講した。・地域統計論：地域政策学部での今後の学習に必要なとなる基礎的な統計の知識について、WebGIS などを紹介しながら実践的な内容を紹介した。本年度は完全オンラインで開講のため、ZOOM を用いた双方向の授業を実施した。・基礎演習：2 年生向けのゼミを担当し、観光地理学の書籍「ツーリズムの地理学－観光から考える地域の魅力－（二宮書店，2019 年）」の輪読を行った。本年度は対面とオンラインの併用で開講した。・演習 I：本年度の 3 年生向けのゼミは、前期は完全オンライン、後期は対面とオンラインの併用で開講した。前期は各自で街を歩いてもらい、Google Map の共有機能を利用して疑似的にフィールドワークを実施した。後期は共有して作成したデータをもとに、GIS を用いて地域分析を行った。 <p>【研究上の成果に関する事項】</p> <p>周辺地域における海岸観光地の存立基盤の研究として、オーストラリア・ケアンズの調査結果を論文として公表した。</p> <p>今年度に公表した研究上の成果は以下のとおりである。</p> <p>(著書)</p> <ul style="list-style-type: none">・菊地俊夫・松山洋編（2020）：「東京地理入門－東京をあるく、みる、たのしむ－」，朝倉書店。・Geography of Tokyo. edited by Kikuchi, T., Matsuyama, H., Sasaki, L. and Ranaweera, E., Asakura Publishing, 2020.・菊地俊夫編著（2021）：「地の理の学び方－地域のさまざまな見方・考え方」，二宮書店。・高崎経済大学地域科学研究所編（2021）：「農業用水と地域再生－高崎市・長野堰の事例」，日本経済評論社。・田林 明・菊地俊夫・西野寿章・山本 充編著（2021）：「日本農業の存続・発展－地域農業の戦略」，農林統計出版。 <p>(論文)</p> <ul style="list-style-type: none">・太田 慧・飯塚 遼・杉本興運・池田真利子（2020）：夜のウォーターフロントの再編とナイトライフ，月刊地理 65 (9)。・太田 慧・矢ヶ崎太洋（2021）：オーストラリア・ケアンズにおける海岸リゾートの発	

展－ケアンズ近郊パームコーブの事例，観光科学研究第 14 号.

(研究費)

- ・日本学術振興会 若手研究「周辺地域における海岸観光地の存立基盤と適正利用に関する比較研究」，研究代表者：太田 慧（継続）
- ・高崎経済大学地域科学研究所「地方都市中心市街地研究－人口減少時代におけるまちづくり－」，研究代表者：阿部圭司（継続）

【職務上の成果に関する事項】

- ・教育、研究内容について夢ナビ 2020 へ掲載された（2020 年 4 月）

2 その他の事項

3 次年度以降の計画・抱負

【教育関連】

今年度担当した科目の改善を行うとともに、次年度は対面講義とオンラインを併用した講義を実施するための準備を行う。

【研究関連】

昨年度から継続して取り組んでいる周辺地域における海岸観光地の存立基盤と適正利用に関する研究を進め、学会や論文発表を通して公表する予定である。